

第147期京都中央労働学校 募集要項

講義時間は、午後7時～9時10分（休憩も含まず）

20回講義のうち15回以上出席した方に修了証書をお渡しします。

テキストは、学習レジュメを準備しています。

受講料は、10,000円です。金額に消費税が含まれています。

会場は、『京都学習会館』（上京区堀川丸太町西一筋目上ル）です。

京都労働者学習協議会

電話(075)841-8141

FAX(075)821-3665

『京都学習会館』には二・四輪共に駐車場はありません。二条城市営駐車場へお願いします。

地下鉄丸太町駅・二条城前駅から『京都学習会館』まで歩いて10分以内です。



キリトリ

第147期京都中央労働学校 申込用紙					
申込みチェック		本科	哲学科	経済学科	労働運動学科
ふりがな		性別	年齢		
氏名:		男・女	才		
現住所					
職場・学園					
労働組合	(全国単産)				
電話: 職場 ()	-	自宅 ()	-		

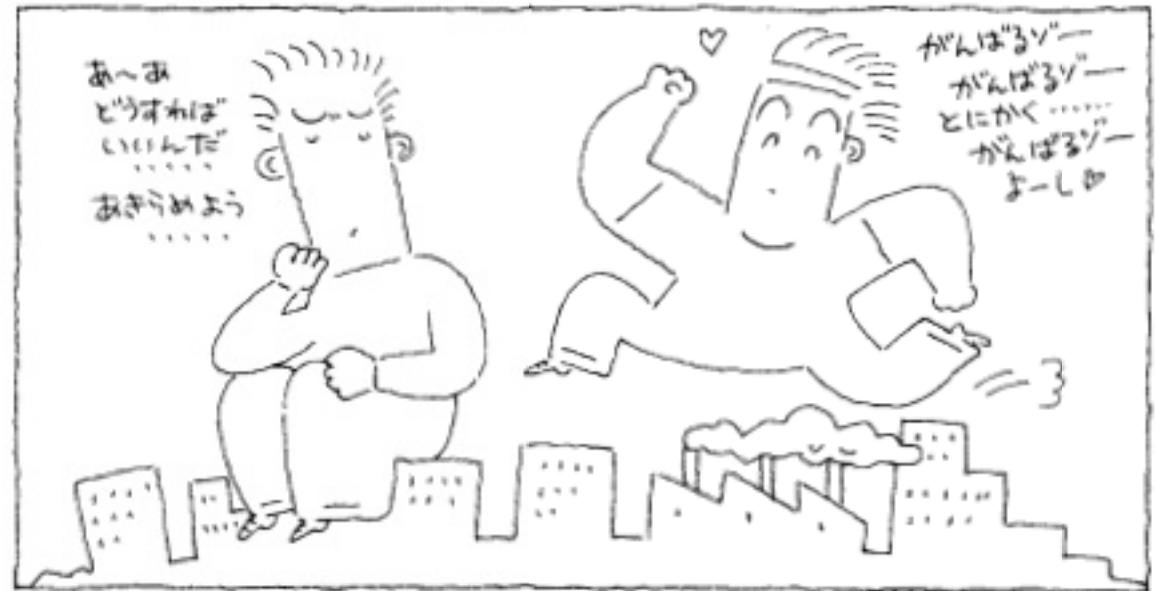
人間らしく働くって どういうことなんだろう



申込先は
京都労働者学習協議会
電話 075-841-8141
FAX 075-821-3665

京都中央労働学校 第147期生募集中心!!

2014年2月22日(土)午後7時 開校オリエンテーション



50年の歴史
中央労働学校
本科

職業選択の自由……自分のやりたい仕事ありました？
とにかく働かなければ生活が出来ない？
ちょっとの我慢はあたりまえのこと？
続けられる自信ありますか？
能力さえあれば大丈夫、解雇されないって本当か？
雇われて働くとはどういうことだろうか。

中央労働学校の本科では、科学的社会主義を総合的・体系的に学びます。

みなさんは、この日本が資本主義社会であることをご存じですか。資本主義は「雇われて働く」ことを特徴としています。また、「利潤を目的に生産活動をおこな」っています。私たちが苦しめる不安定な雇用と長時間労働、「生きづらさ」……みんなこの資本主義という仕組みから出てくるのです。これをまずとりあげます。そして、「知のESSCENCE」で「人間らしさと働くこと」、「知性とは、自由とは」と学び「わたしたちの考える力」を高めていきます。

資本主義は永遠の社会ではありません。封建制の社会が変わったように、新しい社会へと進んでゆきます。その法則・必然性を学びます。

日 程

講 義

2/22(土)開校オリエンテーション

2/25(火)第01課 マルクスは何を発見し変革したか

2/28(金)第02課 資本主義経済の基礎 商品の価値とはなにか

3/04(火)第03課 雇われて働くとはどういうことか 賃金は労働の価格

2/07(金)第04課 利潤の源泉とその実現 搾取のしくみ

3/11(火)第05課 利潤はどのように分配されるか

資本主義社会の経済的基礎

3/14(金)第06課 資本主義経済の出発点 世界と日本

3/18(火)第07課 *知のESSCENCE 人間らしさと働くこと

3/21(金)第08課 不況はなぜおこるのか 景気循環と恐慌

3/25(火)第09課 *知のESSCENCE 「競争」は成長・発展の源泉か

3/28(金)第10課 マルクス「労働組合 過去、現在、未来」を読む

4/01(火)第11課 *知のESSCENCE 知性とは、自由とは

4/04(金)第12課 働くものの味方はだれか 政党のはなし

4/08(火)第13課 *知のESSCENCE 現代の「神話」と宗教を考える

4/11(金)第14課 資本主義の現段階 独占資本主義の基礎

4/15(火)第15課 *知のESSCENCE 現実をとらえる方法

唯物論と弁証法

4/18(金)第16課 グロバリゼーションと「矛盾」の深化

4/22(火)第17課 *知のESSCENCE マルクスの「社会観・歴史観」とは

4/25(金)第18課 日本の変革の「展望と条件」

4/29(火)第19課 世界でひろがる社会変革の流れ

5/02(金)第20課 人類の未来社会「社会主義・共産主義」とは

何を学ぶのか

いくつかの講義の《学習のポイント》を紹介します。

第2課 資本主義経済の基礎 商品の価値とはなにか

《学習のポイント》 私たちが働き、暮らしている社会の土台は資本主義とよばれる経済の仕組みで成り立っています。資本主義という言葉は「資本」が中心となっている経済の仕組みを意味します。資本主義経済ではまず、ほとんどあらゆるモノ（財とサービス）が商品として売買され、価格をもっています。どうしてモノには価格があるのでしょうか。私たちがその価格に対してお金を支払い、モノを買うとはどういうことなのでしょうか。モノが商品として生産され、売られる仕組みを理解することが資本主義経済の本質を理解する第一歩となります。



第4課 利潤の源泉とその実現 搾取のしくみ

《学習のポイント》 資本家（経営者）の収入は会社（法人）の役員報酬や株式への配当という形をとります。その源泉は資本（会社）が獲得する利潤であり、賃金とは区別されます。資本（会社）が支払う利子や地代、税金の源泉も利潤にあります。利潤はどこから、どのようにして生まれるのでしょうか。その源泉は資本（会社）に雇われて商品を生産する労働者の労働にあります。賃金を支払えば資本（会社）は労働者からより多くの価値を得ることができます。この搾取のしくみを把握することが資本主義経済を根本から理解することです。



第7課 *知のESSENCE 人間らしさと働くこと

《学習のポイント》 人間らしさとは何でしょうか。それは「人間とは何か」という問いと不可分です。その問いに対しては多くの解答があります。ここでは人間が働くこと（労働）を考えます。労働は生活に欠かせないだけでなく、労働が人間をつくってきました。しかしマルクスは労働によってかえって人間らしさを失う「労働の疎外」も論じました。今日でも過労死・過労自殺やワーキング・プアの問題があります。人間にとって労働とは何かを考えましょう。



第11課 *知のESSENCE 知性とは、自由とは

《学習のポイント》 人間は「ホモ・サピエンス」（賢い人）です。しかし人間は愚かなこともします。人間の賢さが真に発揮できるためには何が必要なのでしょうか。今回は人間の知性について、感情や意志とともにとらえたいと思います。そして認識と実践とを結びつけて、人間の自由を実現する仕方考えたいと思います。

第15課 *知のESSENCE 現実をとらえる方法 唯物論と弁証法

《学習のポイント》 今回とりあげる「現実をとらえる方法」は、現実をありのままにリアルにとらえ、相互の連関と運動し発展する姿をダイナミックにとらえることです。今回は、哲学の基本問題を取り上げます。「哲学」は「フィロソフィ」の翻訳です。「フィロ（愛）ソフィ（知）」とは、人間と世界についての根本的な知恵を求めることです。その意味で、「哲学」とは「哲」（賢さ）を求める学問です。今回は、唯物論と弁証法を考えたいと思います。



第20課 人類の未来社会「社会主義・共産主義」とは

《学習のポイント》 いま地球上のいろんなところで「資本主義を超える」模索が始まってきました。その「利潤第一主義」が生みだす災厄から解放されるには、資本主義のどこをどう変革していけばよいのでしょうか。生産手段が生産者・労働者から切り離されて、私的資本の利潤追求のために使われている、という根源にある問題を学びます。代わって、働くものが生産手段を所有し運用していくようになると、人間の生活と発達を中心に坐っていく社会がどのように開けてくるのでしょうか。それに近づいていく筋道は。

